

戦時中の生活、歴史学ぶ

玉名町小

太平洋戦争の発端とな

った真珠湾攻撃から80日

で80年となるのを翌日に

控えた7日、玉名町小

(玉名市)の6年生約1

10人が、当時の日用品

や軍服などを通して、戦

時中の生活や地元の戦

争の歴史を学んだ。

くまもと戦争遺跡・文

化遺産ネットワークの高

谷和生代表(67)が、市

内にあった旧日本陸軍

の大浜飛行場や米軍に

よる空襲について説明。

「広い土地があった玉名

が飛行場の建設地に選

ばれ、操縦士を目指す

若者が全国から集まっ

た」「従軍看護婦とし

て女性も戦地に行った」

この話に、児童たちは

真剣に聞き入っていた。

荒尾市の戦時資料研

究家、松山強さん(64)

が収集した旧陸軍の

軍服や鉄かぶと、当時の

おもちゃなど50点も紹

介。児童たちは実際に着

たり触ったりして、当時

の暮らしを想像してい

た。焼夷弾を触った河

野琉生君は「ザラザラし

て重かった。あれが降っ

てきたと思うと怖い」と

話していた。

(丸山伸太郎)



焼夷弾の実物を手に取る玉名町小の児童(写真上)、旧日本陸軍航空兵の軍服を着た児童(同下)＝玉名市

ぶれすけ
おすすめ

